1. 事業報告並びに事業計画

- (1-1) 日本放射線影響学会第65回大会(2022年)の準備状況(大会長:児玉靖司会員)
 - 1-1-1 開催日: 令和4年(2022年)9月15日(木)~17日(土)
 - 1-1-2 開催場所:大阪公立大学杉本キャンパス (大阪市住吉区杉本 3-3-138)
 - 1-1-3 テーマ: 「未来社会に貢献する放射線研究」
 - 1-1-4 実行委員長は川西優喜 会員 (大阪公立大学)、プログラム委員長は白石一乗 会員 (大阪公立大学) で運営する。
 - 1-1-5 演題は、シンポジウム 4 題、ワークショップ 9 題、教育講演 1 題、口頭発表 59 題、ポスター発表 86 題の登録があった。また、市民公開講座 (810 教室:9月17日(土) 15:00~17:00) として、「もっと知ろう! —くらしと放射線」(講師 3 名)を開催する(資料 1-1-1)。
 - 1-1-6 現地開催を行うにあたり、できる限りのコロナウイルス感染対策を行うので会員の協力をお願いする。
- (1-2) 日本放射線影響学会第66回大会(2023年)の準備状況(大会長:柿沼志津子 会員)
 - 1-2-1 開催日: 令和5年(2023年)11月6日(月)~8日(水)
 - 1-2-2 開催場所: グランドニッコー東京台場(東京都港区台場 2-6-1)
 - 1-2-3 テーマ(仮): 「放射線の真の理解 ~社会との調和と共生を目指して~」
 - 1-2-4 副大会長は小林純也 副理事長、実行委員長は中島徹夫 会員(量子科学技術研究開発機構)、事務局長は飯塚大輔 学術評議員で運営する。
- (1-3) 日本放射線影響学会第67回大会(2024年)の準備状況(大会長:岡﨑龍史 会員)
 - 1-3-1 開催日: 令和6年(2024年)9月25日(水)~27日(金) SIT (Scholars in Training) ワークショップは9月24日(火)に計画(会場仮押さえ)
 - 1-3-2 開催場所: 北九州国際会議場(北九州市小倉北区浅野3丁目9-30)
 - 1-3-3 テーマ: 「語ろう!放射線」
 - 1-3-4 4 大シンポジウムテーマ 放射線教育、低線量放射線影響、放射線災害対応、医療被ばく、それぞれ 演者数名に内諾済み。
 - 1-3-5 実行委員長は香﨑正宙 学術評議員(産業医科大学)、プログラム委員長は小嶋光明 理事で運営する。

(1-4) 共催・協賛・後援

- 1-4-1 令和4年(2022年)6月1日(火)~令和4年(2022年)8月31日(水)までに共催・協賛・後援 を決定した学術集会等は下記参照。
 - 【後援】第19回毛細血管拡張性運動失調症ワークショップ2023 (ATW2023)、主催:ATW2023 実行委員会(オーガナイザー:高田穣 会員、原田浩 学術評議員)、開催日:令和5年(2023年) 3月2日(木)~5日(日)、開催場所:京都府立京都学・歴彩館 大ホール。

(1-5) 各種推薦

1-5-1 重粒子線がん治療装置等共同利用運営委員会等委員として寺東宏明 会員(岡山大学)と冨田雅典 常任理事(一般財団法人電力中央研究所)を推薦した。

(1-6) 理事会の開催

令和4年度第1回理事会(令和4年(2022年)6月18日(土))をハイブリッド形式で、第2回理事会(令和4年(2022年)7月11日(月)~7月13日(水))、第3回理事会(令和4年(2022年)8月9日(火)~8月10日(水))、第4回理事会(令和4年(2022年)8月25日(木)~8月28日(日))をメール会議で開催した。

(1-7) 社員総会の開催

令和4年度第1回社員総会(令和4年(2022年)6月18日(土))をハイブリッド形式で開催した。

(1-8) 各委員会委員の選任

令和4年度第1回理事会で各委員会委員長の選任に引き続き、各委員長からの提案に基づき、第2回理事会で各委員会委員の選任を行った。

(1-9) 庶務補佐の選任

令和4年度第2回理事会で藤通有希会員を庶務補佐に選任した。

(1-10) 選挙によらない学術評議員候補の決定

令和4年度第3回理事会で岡﨑龍史会員、大野みずき会員、床次眞司会員、浜田信行会員、吉田由香里会員の5名を選挙によらない学術評議員候補に選出し、令和4年度第2回社員総会で選任を諮ることとした。

2. 各委員会からの活動報告及び活動予定

- (2-1) 財務委員会(委員長:細谷紀子 副理事長、副委員長:田代聡 理事長)
 - 2-1-1 随時、予算の執行状況を調査し、特段の問題が無いことを確認した。
 - 2-1-2 科研費(令和 1~5 年度)による JRR 誌の支援を継続中。2022 年度は、40 歳以下の若手研究者を第一著者とする原著論文(Regular paper、Short communication)、および、全ての年代の研究者を第一著者とする総説(Review)に対して、年間 15 篇程度を上限に、掲載費用の支援を行う方針とし、6 月 18 日に、学会通信で周知の上、募集を開始した。今後も、定期的に周知を行う予定。また、Radiation Research Society (RRS) Annual Meeting(於 ハワイ)中の令和 4 年(2022 年)10 月 16 日の RRS との共催シンポジウム(S10: Environmental effects/ Fukushima)において、福島県立医科大学臨床検査医学講座の志村浩己氏(非会員)が、本学会からの推薦で講演を行う予定になっており、発表内容に関する review を後日 JRR に投稿いただくことを前提に、志村氏の RRS 派遣旅費を科研費から支出する。
 - 2-1-3 令和5年度予算を作成した。
 - 2-1-4 令和4年(2022年)9月14日(水)に財務委員会を開催した。
- (2-2) 編集委員会(委員長:近藤隆 監事、担当理事:松本義久 常任理事)
 - 2-2-1 計画通り JRR 誌を定期的に発行した。
 - 2-2-2 疫学分野の担当者が少ない事情もあり、新しく Associate editor を選任した。承認の手続きは今後 進める。
 - 2-2-3 寺島論文賞候補論文を選考して、2022 年度 Journal of Radiation Research 寺島論文賞は、 9 編の応募論文の中から、次の論文に決定した。

Combined effects of cisplatin and photon or proton irradiation in cultured cells: radiosensitization, patterns of cell death and cell cycle distribution

Hiromitsu Iwata, Tsuyoshi Shuto, Shunsuke Kamei, Kohei Omachi, Masataka Moriuchi, Chihiro Omachi, Toshiyuki Toshito, Shingo Hashimoto, Koichiro Nakajima, Chikao Sugie, Hiroyuki Ogino, Hirofumi Kai, Yuta Shibamoto Journal of Radiation Research, Volume 61, Issue 6, November 2020, Pages 832–841. 受賞者は名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 岩田宏満 先生。

- 2-2-4 2021 年 JRR のインパクトファクターは、2.438 (5 year IF=2.857)である。2020 年 IF は 2.724 で あった。
- (2-3) 広報出版委員会(委員長:冨田雅典 常任理事、副委員長:大野みずき 会員、論文紹介企画小委員会委員長:安井博宣 学術評議員)
 - 2-3-1 委員長交代に伴い、新しいメーリングリスト (eikyo_tsushin-ml@criepi.denken.or.jp) を構築し、メーリングリストによる学会通信配信を随時実施した。新メーリングリストでは添付ファイルは自動暗号化されるため、添付ファイルの配信希望がある場合、会員マイページ「学会通信配信一覧」に添付ファイルとともに掲載した後に、「添付ファイルあり。会員マイページから閲覧・ダウンロード可。」の旨を記載して、テキストのみをメール配信している。配信までに約3営業日かかる見込みであるため、日程に余裕をもって依頼いただけるようにお願いする。前回定時社員総会(令和4年(2022年)6月18日(土))から令和4年(2022年)8月30日(火)までに52件の配信を行った。令和3年(2021年)は年間224件であったが、令和4年(2022年)はすでに191件を配信している。今後、配信担当者の負担軽減のため、夏季や年末・年始等に配信休止期間を設けることも検討する。新メーリングリスト構築時点での登録者数は726名である。
 - 2-3-2 学会ホームページの更新を随時実施した。今後、更新・活用されていないページの削除や、新しいコンテンツの提供、英語版 Web ページの構築に向けた検討を1年かけて進める。
 - 2-3-3 昨年度の定時社員総会(令和3年(2021年)6月12日(土))から令和4年(2022年)8月30日 (火)までに、14件の論文紹介を掲載した。
 - 2-3-4 その他、PDFによる学会ニュースの発行なども今後検討する予定である。
- (2-4) 放射線災害対応委員会(委員長:松本義久常任理事、副委員長:宇佐美徳子会員)
 - 2-4-1 委員会はメール会議を中心に進めており、これまでに以下の事案に対応した。
 - 2-4-2 令和 4 年 (2022 年) の福島県郡山市教育委員会との連携による放射線セミナーについては、第1回を6月1日に開催し、9月14日までに9回実施した。内訳は中学校2回、小学校7回(5校)、現

地での対面実施が8回、オンラインが1回である。今後は、中学校1回、小学校3回(2校)での実施が予定されている。さらに、福島県内の他の市町村の中学校から依頼があり、対応の準備を進めている。今年の放射線セミナーの派遣旅費などは、京都大学大学院生命科学研究科附属放射線生物研究センターから一部支援を受けた。また、東工大基金理科教育振興支援「ものつくり人材の裾野拡大ならびにSTEM教育の推進支援プロジェクト」に採択となった。

- 2-4-3 福島県大熊町除染検証委員会に宇佐美徳子 副委員長を派遣した。除染検証委員会では、令和2年11月から令和4年4月まで8回にわたり検証を行い、最終報告書を作成した。これを受けて、大熊町内の帰還困難区域のうち、特定復興再生拠点区域の避難指示が令和4年6月30日に解除された。これについては、大熊町のホームページに掲載されている。
- (2-5) 企画委員会(委員長:田代聡 理事長、副委員長:笹谷めぐみ 学術評議員、自然災害対応担当理事:田 代聡 理事長、SIT プログラム小委員会委員長:平山亮一 学術評議員)
 - 2-5-1 令和4年(2022年)の第65回大会は、児玉靖司会員(大阪公立大学)を大会長として開催する。
 - 2-5-2 令和 5 年 (2023 年) の第 66 回大会は、柿沼志津子 会員(量子科学技術研究開発機構)を大会長として東京で開催する。なお、第 66 回大会は日本保健物理学会と国際放射線防護委員会(ICRP)シンポジウムと合同で行う予定である。
 - 2-5-3 令和6年(2024年)の第67回大会は、岡﨑龍史会員(産業医科大学)を大会長として福岡で開催する。
 - 2-5-4 令和7年(2025年)の第68回大会長の公募を開始した。
 - 2-5-5 SIT (Scholar-in-Training) プログラム小委員会について、委員長として平山亮一 学術評議員を、委員として、大塚健介 会員、神﨑訓枝 会員、香﨑正宙 学術評議員、白石一乗 会員、永田健斗 会員、中村麻子 学術評議員、柳原晃弘 会員を選任した。第65回大会前日(2022年9月14日(水))に、第2回 SIT ワークショップを開催するために、大会長、企画委員会、および若手人材の確保・育成に関係する各委員会と連携して準備を行っている。
 - 2-5-6 令和 4 年 (2022 年) の第 65 回大会開催にむけて、大規模自然災害に関する大会参加費免除の案内を 行った。
- (2-6) グローバル化委員会(委員長:今岡達彦 副理事長、副委員長:三浦雅彦 学術評議員、若手部会部会長: 神﨑訓枝 会員、FLASH 研究部会部会長:平山亮一 学術評議員)
 - 2-6-1 ICRP シンポジウム組織委員会からの打診を受けて、第 66 回大会における JASTRO 生物部会との合同シンポジウムについて検討し、precision radiotherapy をテーマとして松本義久 常任理事が担当することとした。ACRR(インド・ムンバイ)での AARR Awards の推薦依頼を影響学会通信にて行った。ICRR は令和 5 年(2023 年)8 月 27 日~30 日にカナダ・モントリオールで開催予定。
 - 2-6-2 JASTRO との合同シンポジウムに係る非会員招待講演者の旅費の助成を JARR に申請し、採択された。第 65 回大会において、シンポジウム「ICRP 次期勧告に向けた放射線防護における論点と将来課題」(座長:山田裕会員(量子科学技術研究開発機構)、冨田雅典 常任理事)を、日本放射線技術学会、日本保健物理学会との共催企画として開催予定。また、日本放射線影響学会-日本放射線腫瘍学会(JASTRO)合同シンポジウムとして「新しい放射線治療法の今後の展望―FLASH 放射線治療とマイクロビーム放射線治療の現状と課題―」(座長:小嶋光明会員(大分県立看護科学大学)、岩田宏満氏(名古屋市大・JASTRO))を開催予定。本学会と JASTRO は、学術大会合同企画の実施に関する覚書を締結しており、合同企画を交互に隔年開催することが決まっている。令和 5 年(2023 年)は、JASTRO の第 36 回学術大会(大会長:茂松 直之 理事長、会場:パシフィコ横浜 ノース)にて合同シンポジウムを開催予定。
 - 2-6-3 若手部会は、部会員の各委員会への推薦及び就任依頼により、企画委員会、賞等選考委員会、学術委員会、放射線リスク・防護検討委員会、広報出版委員会、規約委員会、放射線災害対応委員会、財務委員会、教育研修委員会、グローバル化委員会、キャリアパス・男女共同参画委員会で若手が起用された。また、令和4年(2022年)7月12日に、麻布大学とオンラインのハイブリッド形式で、旧役員、新役員候補者、今岡理事の11名で若手部会役員の引き継ぎ会議を行い、若手部会の課題の洗い出し、今後の計画を議論した。今後は、第65回大会にて、キャリアパス・男女共同参画委員会のセミナーとSITワークショップを後援する。また第65回大会において若手部会企画ワークショップ(担当:鈴木基史 部会役員)核医学関連のテーマで開催するほか、総会で若手優秀論文賞表彰1名を表彰する予定。第2回若手放射線影響研究会(担当:永根大幹部会役員)を酸化ストレス学会若手の会との共同で冬に開催し、部会員の中から若手優秀発表賞1名を表彰する予定。令和4年(2022年)9月2日時点での会員数は73名(令和4年(2022年)5月28日時点:64名)であり順調に会員数を増やしている。
 - 2-6-4 第1回委員会を開催し、若手部会役員の選任、FLASH 部会員の選任、若手部会の活動計画及び細則

の改訂を行い、理事会に報告した。第2回委員会では令和5年度予算要求について審議した。今後、 FLASH 研究部会によるウェビナー、保健物理学会等との合同企画、研究室・研究紹介セミナーについても進める予定。

- (2-7) キャリアパス・男女共同参画委員会(委員長:飯塚大輔 学術評議員、副委員長:石川純也 学術評議員、 担当理事:坂田律 理事)
 - 2-7-1 第 65 回大会の 1 日目 (令和 4 年 (2022 年) 9 月 15 日 (木) 11:50~13:10) に、第 9 回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「現代のライフイベントから学ぶ研究者の持続可能なライフプランとは?」を開催する。巽 真理子 氏 (大阪公立大学女性研究者支援センター) を特別講師としてお招きするとともに、6 名のパネリストによるパネル討論を通じて、年を重ねるごとに直面する、結婚、出産、育児、介護などについて、仕事との両立の難しさ、どのように乗り越えようとしたのか、などを含むパネルディスカッションを行い、私たちの研究者人生、そして、次世代以降の研究者にとって持続可能なライフプラン設計の一助となることを期待する (資料 2-7-1)。
 - 2-7-2 男女共同参画に関わる大会参加支援として、第 65 回大会で「託児費用援助」の申請を受け付けるべく、大会事務局と連携して募集要項を作成し、申請受付の予告を令和 4 年(2022 年) 7 月 13 日付で学会通信にて配信した。
 - 2-7-3 第 65 回大会大会長の協力のもと、参加登録システムで属性調査(性別、所属、職階、年代)が実施されている。後日、学会通信、および、委員会 HP で集計結果を発表する。
 - 2-7-4 令和4年(2022年)9月15日(木)(第9回委員会企画セミナー終了後)から10月14日(金)にかけて、2022年度キャリアパス・男女共同参画アンケートをGoogle フォームを用いて実施する予定である。第9回委員会企画セミナーの感想や今後のセミナーへの要望、今後の年次大会開催地での託児サービス利用のニーズ、様々な事情を抱える会員が学会活動に参加しやすくするためのアイデアなど、キャリアパス・男女共同参画活動に関する意見・要望を広く収集する内容となっている。
 - 2-7-5 平成 28 年 (2016 年) 度より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟学協会として参加している。令和 4 年 (2022 年) 10 月 8 日 (土) に第 20 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが開催される。本学会としては、例年通りシンポジウム資料集に本学会のキャリアパス・男女共同参画に関する活動報告(資料 2-7-2) を掲載する。
 - 2-7-6 学会通信やホームページを活用した情報発信を適宜行った。
- (2-8) 規約委員会(委員長:小林純也 副理事長、副委員長:鈴木正敏 学術評議員)
 - 2-8-1 前理事会、前倫理委員会及び前規約委員会から申し送られた選挙制度の課題(理事・監事選挙で候補者定員以下の場合の投票省略、監事選挙制度の見直し)について、第1回規約委員会(令和4年(2022年)8月24日(木)~29日(月))をメール開催して意見交換を行い、理事・監事選挙で候補者定員以下の場合の投票省略については前理事会の方針に沿って選挙規程の改定を速やかに行うこと、監事選挙制度については自薦・他薦制度の見直しも含め、投票対象の候補選出方法について、9月14日開催の理事会・社員総会で意見聴取することとなった。
 - 2-8-2 前学術委員会から申し送られた学術大会に関する著作権の取り扱い(抄録著作権の影響学会への帰属、 発表・講演資料の二次利用)については、第1回規約委員会で意見交換を行い、前学術委員会の提案 通りに、大会申し送り文章の次回改訂時に追記することを、確認した。
- (2-9) 賞等選考委員会(委員長:坂田律 理事、副委員長:篠原美紀 会員)
 - 2-9-1 第 14 回永井隆平和記念・長崎賞、第 30 回木原記念財団学術賞の推薦候補者の募集を行ったが、応募はなかった。
 - 2-9-2 学生旅費援助申請に対し応募のあった 19 名について援助の可否を審議し、その結果を理事会に報告し、全員への旅費援助採択が決定された。
 - 2-9-3 International Association for Radiation Research Kaplan Award 受賞候補者の推薦に対し2名の推薦があった。1名を選考し日本放射線影響学会より推薦した。
 - 2-9-4 令和 4 年 (2022 年) 度日本放射線影響学会各賞への推薦について審議し、委員会より奨励賞(馬立秋会員)、功績賞(中村典会員)、岩崎民子賞(南璡旼会員、大野みずき会員)、名誉会員(草間朋子会員)、功労賞(湯川修身功労会員)を推薦し、理事会により受賞が決定された。第65回大会にて授賞式を行う予定。
 - 2-9-5 ACRR 旅費援助に対し1名の応募があり、援助の可否を審議中である。
 - 2-9-6 第65回大会優秀演題発表賞の選考委員として、保田浩志 委員を推薦した。
 - 2-9-7 その他、外部からの受賞候補者推薦依頼があり次第、対応する予定である。
- (2-10) 学術委員会(委員長:坂田律 理事、副委員長:篠原美紀 会員)

- 2-10-1 放射線科学に関連する企画運営等の依頼があった時に、必要に応じて企画委員会等と連携しつつ、検討する。
- 2-10-2 学会の長期ビジョンの策定について、前期委員長と情報共有を行った。
- 2-10-3 J-STAGE 担当として、アクセス統計データを蓄積している。
- (2-11) 倫理委員会(委員長:田内広 学術評議員、担当理事:冨田雅典 常任理事)
 - 2-11-1 理事等の利益相反確認について、改訂された要項に従って該当者に申告書の提出を依頼した。申告書がそろい次第、委員会での確認作業を進めて理事長へ報告する予定である。
- (2-12) 教育研修委員会(委員長:吉野浩教 理事、副委員長:野田朝男 会員)
 - 2-12-1 研究・研究室紹介ウェビナーをグローバル化委員会とともに開催した。3名の委員が各1回座長を担当した(第2回:立花章 委員長、第4回:坂田律 委員、第7回:渡辺立子 委員)。また、第8回には坂田律 委員が紹介者として放射線影響研究所の疫学研究について紹介した。
 - 2-12-2 放射線影響研究所が主催する「第 12 回生物学者のための疫学研修会」が令和 4 年 (2022 年) 8 月 22 日 (月)、23 日 (火) にオンラインで開催された。
 - 2-12-3 日本放射線影響学会第 65 回大会が主催する市民公開講座「もっと知ろう!- くらしと放射線」(資料 1-1-1) が令和 4 年 (2022 年) 9 月 17 日 (土) に開催される予定である。
- (2-13) 放射線リスク・防護検討委員会(委員長:小嶋光明 理事、副委員長:小林純也 副理事長)
 - 2-13-1 2022 年度第一回放射線リスク・防護検討委員会を 2022 年 8 月 24 日にオンラインで開催した。議事 1 として、原子力規制委員会委託事業「放射線防護研究分野における課題解決型ネットワークとアンブレラ型統合プラットフォームの形成(アンブレラ事業)」に対する対応委員会として 2017 年度に設置された本委員会のこれまでの活動内容を小林純也 副委員長から報告が行われ、議事 2 として、令和 3 年度で終了したアンブレラ事業の発展形として神田玲子 会員が中心となって現在設置準備中である「放射線防護・健康科学アカデミア」の現状を佐々木道也 委員から報告がなされた。これらの報告を踏まえて、今後の活動内容について委員間で議論し、①放射線防護・健康科学アカデミアに本委員会がどのような形で協力していけるかを検討していく、②放射線防護につなげるための放射線影響研究の課題を抽出・整理していく、③ICRP2023 に参加・協力を検討していくこととした。

(2-14) 学会事務局

- 2-14-1 会員動向: 令和4年(2022年)5月31日(火)現在(括弧内は令和3年(2021年)9月13日(月)時点「マイページ」登録者数*在籍者のみ)
 - 名簿(「マイページ」登録者): 学会員総数 762 (778) 名・うち女性 174 (183) 名 正会員 581 (586) 名・うち女性 140 (144) 名、学生会員 56 (85) 名・うち女性 18 (28) 名、海 外会員 18 (13) 名・うち女性 2 (2) 名、名誉会員 42 (34) 名・うち女性 0 (1) 名、功労会員 6 (4) 名・うち女性 0 (0) 名、終身会員 59 (56) 名・うち女性 10 (8) 名。
- 2-14-2 会員動向: 令和4年(2022年)8月31日(水)現在(括弧内は令和4年(2022年)5月31日(火)時点「マイページ」登録者数*在籍者のみ)
 - 名簿(「マイページ」登録者): 学会員総数 780 (762) 名・うち女性 176 (174) 名 正会員 587 (581) 名・うち女性 140 (140) 名、学生会員 71 (56) 名・うち女性 24 (18) 名、海 外会員 18 (18) 名・うち女性 2 (2) 名、名誉会員 39 (42) 名・うち女性 0 (0) 名、功労会員 6 (6) 名・うち女性 0 (0) 名、終身会員 59 (59) 名・うち女性 10 (10) 名。

以上

日本放射線影響学会第65回大会 市民公開講座

もっと知ろう!-くらしと放射線

私たちの生活に深く関わっている放射線。その放射線を利用した、滅菌・診断・治療についてわかりやすく解説します。たくさんの方のご来場をお待ちしております。

入場無料 事前申込不要 _{直接会場に お越しください}

日時

2022年9月17日(土)(15時開場) 15:15~17:00 定員200名

会場

公立大学法人大阪公立大学

杉本キャンパス 全学共通教育棟810教室 大阪市住吉区杉本3丁目3-138

司会

朝田良子・児玉靖司 (大阪公立大学)



駐車スペースはございませんので、ご来場の際は、 公共交通機関をご利用ください。

1. 殺滅菌分野における放射線利用

講師 古田 雅一 先生 (大阪公立大学大学院工学研究科)



医薬品には滅菌が不可欠であり、また食品においても食中毒菌の殺菌や腐敗菌の殺菌による保存性の向上が求められています。加熱は古くから殺滅菌に利用されており、信頼性の高い方法ではありますが、熱に弱い医薬品やディスポーザブル医療用具などの滅菌には向きません。一方放射線滅菌は温度上昇が軽微であることや放射線の透過力が高いために最終梱包状態で処理できるなどのメリットがあります。同様に食品の殺菌にも放射線の利用が進んでいます。これらの特性について解説し、国内外における放射線殺菌の利用の状況について紹介したいと思います。

2. 放射線診療の最前線:医療被ばくと画像診断

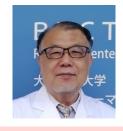
講師 佐原 朋広 先生 (大阪公立大学医学部附属病院中央放射線部)



私たち診療放射線技師は、画像診断の放射線画像検査を担っています。検査室では、患者様から「毎回、CT検査をして放射線被ばくは大丈夫なの?」という質問を受けます。私たちは「放射線被ばくのリスクよりも放射線検査の便益が大きく上回りますよ!」と答えます。CT検査に代表される画像診断は、放射線被ばくのリスクがあるものの、多くの病気を発見(時には早期発見)できる可能性があります。本講演では、リスクコミュニケーションの観点から「放射線被ばくのリスク」と「便益 = 放射線画像診断が有効であった例」についてお話したいと考えます。

3. 体にやさしいがん治療BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)とは?

講師 切畑 光統 先生 (大阪公立大学BNCT研究センター)



BNCTの保険医療は、世界に先駆けて2020年6月に我が国で始まり、次世代のがん治療として多くの注目を集めています。BNCTは低いエネルギーの中性子と、がん細胞に集るホウ素の反応を利用して、がん細胞のみをピンポイントで破壊に導く、手術や制がん剤等を必要としない体にやさしいQOL(生活の質)の高いがん治療です。 BNCTのコンセプトは1936年に提唱され、その実現には多くの研究者が関わってきましたが、この講演では、BNCTのホウ素薬剤に焦点を当て、その原理と歩み、現状と展望等について易しく解説します。

大会事務局:大阪公立大学大学院理学研究科生物化学専攻放射線生物学研究室

〒599-8570 堺市中区学園町1-2 TEL:072-254-9855 プ

大会HP https://www.senkyo.co.jp/jrrs65/index.html

協力:「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委員会

- ・お席は十分ご用意いたしますが、万一、規定の収容人数を超えた場合には、感染防止の観点から聴講をお断りすることがあります。
- ・マスク着用など、基本的な感染対策を徹底した上でご来場ください。 また、感染の状況によっては中止となる可能性があります。

日本放射線影響学会・第9回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー

現代のライフイベントから学ぶ 研究者の持続可能なライフプランとは?

2022年9月15日 (木) 11:50~13:10 大阪公立大学・杉本キャンパス (日本放射線影響学会第65回大会において開催)

本セミナーでは、年を重ねるごとに直面する結婚・出産・育児・介護などについて、仕事との両立の難しさ、どのように乗り越えようとしたのか、などを含むパネルディスカッションを行います。私たちの研究者人生、そして次世代以降の研究者にとって持続可能なライフプラン設計の一助となれば幸いです。あらゆる年代の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

Program

開会挨拶(キャリアパス・男女共同参画委員会委員長飯塚大輔)

第一部•特別講演

「ケアとジェンダーから考える 研究者のワーク・ライフ・バランス」

巽 真理子 氏 (大阪公立大学女性研究者支援センター)

(ご講演内容)

子育てや介護などのケアを抱えた研究者にとって、授業や学生指導、大学運営という仕事(ワーク)と家庭責任(ライフ)をこなしながら、研究というもう1つの大切な「ワーク」を続けていくことは重要なポイントです。このような研究者のワーク・ライフ・バランスについて、父親の子育てと働き方をジェンダー視点で研究しながら、大学における研究者支援に関わってきた経験から、様々なデータや研究成果をもとにお話します。

第二部・パネル討論

「現代のライフイベントから学ぶ 研究者の持続可能なライフプランとは?」

島田 義也氏 (環境科学技術研究所)

岡崎 龍史氏 (産業医科大学)

朝田 良子氏 (大阪公立大学)

吉野 浩教氏 (弘前大学)

藤通 有希氏 (電力中央研究所)

藤本えりか氏(麻布大学)

▶ 閉会挨拶(日本放射線影響学会 理事長 田代 聡)

- ※ 当日は軽食を配布する予定です(数量限定です)。
- ※ ご不明点等は、<u>jrrs.cpgec@gmail.com</u>までお問い合わせください。

後援:男女共同参画学協会連絡会、日本放射線影響学会若手部会、 日本放射線影響学会SITプログラム小委員会



一般社団法人 日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画 活動報告

一般社団法人 日本放射線影響学会(担当: 飯塚 大輔·量子科学技術研究開発機構) 連絡先:学会事務局 E-mail: jimukyoku@jrrs.org

Annual report on the activities for career path and gender equality in the Japanese Radiation Research Society (2021-2022)

The Japanese Radiation Research Society (Daisuke Iizuka, Research Institutes for Quantum Science and Technology)

Abstract: The Japanese Radiation Research Society (JRRS) was founded in 1959. 780 members, 22.6% of whom are women, as of Aug 2022. The JRRS Career Path and Gender Equality Committee was established in 2015. Activities include holding seminars on career advancement and work-life balance, providing childcare support during the annual conference, and conducting a visibility survey of female researchers affiliated with JRRS.

1. 日本放射線影響学会について

日本放射線影響学会は、1959年、放射線の人 体と環境に対する影響とその機構の解明、ならび に利用への貢献を目指して学際的な放射線科学 研究を推進する場として設立されました。設立当 初から、物理、化学、生物、環境、医学、工学、放 射線防護、被ばく 医療などの幅広い分野の研究 者が集い、分野横断的な研究交流の場としての 機能を果たしてきました。学術集会として、1959 年10月の第一回大会を皮切りに毎年年次大会が 開催されており、2022年9月には、第65回大会 (大会長 児玉靖司(大阪公立大学))が開催さ れました。また、学会誌として、1960年よりJournal of Radiation Research (JRR)を発行しており、 2009年からは日本放射線影響学会(JRRS)と日 本放射線腫瘍学会(JASTRO)の両学会の機関 誌として、広く放射線科学に関連した研究成果を 世界に発信しています。

本学会は、2015年4月に一般社団法人に移行しました。会員数(2022年8月31日時点)は780名(うち、学生会員は71名)であり、全体に占める女性会員の割合は22.6%、学生会員に占める女性の割合は33.8%です。2011年度より放射線科学研究の活性化と日本放射線影響学会の発展に寄与した女性研究者を顕彰するために岩崎民子賞を設けています。

男女共同参画学協会連絡会には、2016年度よりオブザーバー学協会として加盟しています。

2. キャリアパス・男女共同参画への取り組み

日本放射線影響学会キャリアパス・男女共同参画委員会は、2014年度に若手研究者支援活動の一環として設置された男女共同参画ワーキンググループを前身としています。キャリアアップを支援する活動の企画や本学会における男女共同参画の実情を把握し、支援することを目的としています。2022年9月現在の当委員会の委員数は9名(男性4名、女性5名)です。

育児中の会員の大会参加を支援するため、「託児費用援助制度」を設けております。2017年度からは、年次大会における演題発表者等の属性調査を行い、女性会員の活動度の経年変化をモニターしています。学会ホームページ内に、委員会のページを立ち上げており(下記URL)、活動状況を掲載しています。

https://www.jrrs.org/about/gender_equality.html

3. 2022年度のセミナー企画について

第9回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーを9月15日(木)に開催しました。「現代のライフイベントから学ぶ研究者の持続可能なライフプランとは?」をテーマに、外部講師による講演とパネル討論を通じて、年を重ねるごとに直面する、結婚、出産、育児、介護などについて、仕事との両立の難しさ、どのように乗り越えようとしたのか、などについて理解を深めました。